

活動報告書

報告日付:2021年 4月 15日

事業ID:2019517746

事業名:広島県廿日市市における
第三の居場所の運営(2年目)

団体名:社会福祉法人西中国キリスト教社会事業団

事業完了日:2021年3月31日

1.事業内容(実績。700文字以内):

第三の居場所の運営

- (1)期間:2020年4月1日~2021年3月31日(週5日、14時から21時まで開所)
- (2)場所:広島県廿日市市
- (3)対象:小学校低学年を中心に定員20名のところ計9名
- (4)内容:コロナ禍にあったため、多世代間交流のうち、高齢者施設にお住いの高齢者との交流は中止し、スタッフ、大学生、友人など、多くの世代との「共生」のなかで、子どもたちの自己肯定感をはじめ、礼儀、思いやり、尊敬、感謝などの価値観を育むための活動に取り組んだ。

2.事業内容詳細:

対象学校の児童生徒に放課後から夜9時までの間、安心して安全に過ごすことのできる居場所を提供し、宿題の補助や読み聞かせ、体験プログラムによって学習支援を行いながら、ニーズに応じて食事を提供し、歯磨き、入浴に関する生活習慣の形成をサポートした。また、学校や行政等各種関係団体との定例会議やケース会議に参加した他、保護者への相談援助業務を行うことによって子ども達が安心して過ごせる「第三の居場所」外における育成環境の醸成にも寄与した。

3.契約時事業目標の達成状況:

【助成契約書記載の目標】

- (1) 拠点利用児童の募集(2019年12月開設予定で、2021年3月末時点で15名を目標とする)
- (2) 児童への居場所、食事、生活習慣支援、学習支援などの安定的な提供
- (3) ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築
- (4) 子どもの「経験不足」を解消するようなイベントなどの実施
- (5) 高齢者総合福祉施設併設の強みを活かし、多世代交流を実施し、児童の多様な価値観の育成

【目標の達成状況】

- (1) 廿日市市、阿品台西小学校とともに利用対象候補児童検討委員会を定期開催して利用児童の募集を行ったが、目標には達しなかった(2021年3月末時点で5世帯7名)。
- (2) 新型コロナウイルスによる閉所が1日あったものの、それ以外では予定通り開所し、安定的な居場所提供ができた。調理スタッフの入れ替わりがあったが、支援員が食事を作るなどして対応し、安定的に食事の提供ができた。生活習慣支援については、挨拶や整理整頓、マナーなどに加え、新しい生活様式への対応についても随時指導した。特に挨拶・箸の持ち方・読書習慣などで効果が見られた。学習支援については、「帰ったらまず宿題」ということを徹底したことにより、帰ったらすぐに宿題を広げる、という習慣づけができた。発達に課題のある児童が多く、宿題中はそれぞれに個別対応が必須な状況ではあったが、多くの児童においてどれだけ時間がかかってもやり抜く力が身についてきた。毎日の読み聞かせ活動を続けていたが、児童が「自分の関心のある

本が読みたい」「読書以外の勉強もしたい」という思いを持ち始めたことから、徐々に読書活動や認知機能トレーニング活動に移行している。

- (3) 新型コロナウイルスによりボランティア受け入れはできなかった。行政や対象校との連携には引き続き取り組み、市の担当者や小学校の先生方に、気軽に様子を見に来ていただける関係は維持できている。
- (4) 新型コロナウイルスによりかなりイベント数や規模は縮小したが、デイキャンプや季節の行事を実施した。
- (5) 新型コロナウイルスにより高齢者施設との交流は中止した。